

マナの家 2021 年度提供の放課後等デイサービス保護者アンケート結果

		チェック項目	○	?	×	ご意見
環境 体制 整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	8	1		自転車青乗り回すことができ てよい。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	7	1		無回答 1
	③	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配 慮が適切になされているか	8	1		
適切 な支 援の 提供	④	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別 支援計画が作成されているか	9			
	⑤	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	9			
	⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 害のない子どもと活動する機会があるか	4	4	1	
保 護 者 へ の 説 明 等	⑦	支援の内容、利用者負担等について丁寧な 説明がなされたか	9			
	⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況 や課題について共通理解ができているか	8	1		
	⑨	保護者に対して面談や、育児に関する助言 等の支援が行われているか	9			
	⑩	父母の会の活動の支援や、保護者会等の 開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2	6	1	年に1, 2回でも保護者が参加 できる行事があればよい。
	⑪	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとと もに子どもや保護者に周知・説明し、苦情があつた場合に迅速かつ 適切に対応しているか	9			
	⑫	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされ ているか	7	2		
	⑬	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体 制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に 対して発信しているか	9			
	⑭	個人情報に十分注意しているか	8	1		
非 常 時 等 の 対 応	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル を策定し、保護者に周知・説明されているか	6	3		
	⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救 出、その他必要な訓練が行われているか	8	1		
満 足 度	⑰	子どもは通所を楽しみにしているか	9			
	⑱	事業所の支援に満足しているか	8	1		

～2021 年度アンケート結果の考察と対応～

無記名アンケートを登録者 20 名に配布うち 9 名が回答。概ね評価はいただいているものの

設問項目⑥：放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか

設問項目⑩：父母会の活動促進や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか

の 2 項目では低評価が高評価を上回った。

まず⑥はインクルージョンという国際法並びに厚労省文科省も推し進めようとしている国の施策とも関連する項目で、マナの家でも実は取り組んでいるものだが外部にインクルーティブな支援が鮮明に伝わるような形はとっていない。放課後等デイサービス利用者の中にも普通学級に籍を置いている児童はいるし、特別支援学校の生徒と普通学級の生徒がくっきり分かれた群れと群れの共同活動をベント形式で開催すればわかりやすく社会の特定層からは喝さいを受けることにもなるのであろうが、果たしてそれが本当の共生につながるのかどうかについては一考の余地を残している。方法を誤ればむしろ差別を深めることにもつながりかねないとも考えている。特に自立のために必要な発達を支援するサービスである放課後等デイサービスとしてはくっきり境界線で切り分けられた二つの世界が共に活動することで、障害を持つ子供たち自身が自分を普通ではない群れの一員なのだという意識を強めてしまったり、普通学級の子供たちが精力的に障害を持つ子どもたちをサポートする側に立ち続けることが障害を持つ子どもたちを支援される側に固定化してしまい自立のために必要な自我の形成を妨げてしまうことにもつながりかねないということに危惧している。したがってインクルージョンの真の意味を保護者の気持ちを尊重しながらともに考えていけるような関係を相談支援と連携しながら構築し、誰もが共に過ごすインクルーティブな時間が互いに一人の人間としての等価性を尊重しあえるような意識を構築できるように活動を考えてゆく必要がある。そのためにはまずイベント主導のインクルージョンから日常生活を通じた関係の中で自我レベルでの発達にポイントを置きながらインクルージョンを目指した実践を今後は実践し、振り返りを重ねてゆきたいと考えている。

⑩は保護者同士の連携、についての項目だが、ここにも私どもが謙虚に受け止めなければならない側面と、市場化された自由競争のなかに現在の障害福祉サービスがおかれているという現状とのせめぎあいがあり、そこには保護者の側からだけでは客観的に俯瞰することの難しい実情がある。こうした実情を踏まえたうえで設問のモデルを作成していただきたいものだ。事業所を選べる時代にコンビニのようにクーポン券でも発行すればよいのだろうか？少なくとも私たちはあえて保護者同士のつながりを施設が主導して作らない方向で考えている。あくまでもそうしたつながりに甘えることなく、いつでもだれでも利用契約を解消したいと気兼ねなく申し出ることができるようにと考えている。暗々裏のうちに事業所とのサービス利用以外の関係を構築することで保護者の自由な選択が妨げられないように、その代わりに個別の発達相談に対しては綿密な分析の上で相当のアドバイスはできていると自負している。保護者会には参加したい人もいればしたくない人もいる。マナの家はすべての保護者がマナの家の利用契約解消をいつでも気兼ねなく申し出られないというようなことのないように、そのためにはある一定の距離を積極的に維持してゆくべきではないかと考えている。ただ保護者も参加できるプログラムという点については、今後検討してゆきたいと考えている。ただし、放課後は先生も保護者もない時間であるというところに重要な意味があると思っているので、あくまでも保護者参加型イベントは直接の発達支援とは別に、施設と保護者の関係構築のためのプログラムとして実行してゆくことにはやぶさかではない。ただしそこは放課後等デイサービスとして報酬上評価をしていただきたいところであることをも申し添えておきたい。

全体で 20 名のうち半数すれすれの回答だが、回答を寄せてくださった方々に感謝するとともにアンケートにかかわらずより多くの方々がいつでも気兼ねなく意見を表明できるような雰囲気大切にしたい。またそれと同時にこのようなアンケートの内容の各項目の理解を深め会えるような保護者・事業所支援をソーシャルワーカーとしての相談支援専門員にはお願いしたいところである。なぜなら通所事業所がそれをしようとすると直截的な利益相反が生じてしまうからである。

(マナの家 施設長 田中哲)